



漢文訓読について学ぶこと、教えること、研究すること

グリブ ディーナ（国際教育交流センター／文学部・人文学研究科国際化推進室）

名古屋大学文学部には一年半前にまいりましたが、その前から他の大学の文学研究科や人文科学研究科で人文学系の勉強と研究を10年間以上続けております。

名古屋文学部・人文学研究科では、主に外国人留学生のサポートを担当しております。そして、このたどたどしい日本語と名前からお察しいただけますように、私自身も外国人です。高校生のときに進路について迷って、何となく外国語が習いたかったことと、茶道やお花見など日本伝統文化についての本が印象的だったことが切っ掛けとなり、ロシアの大学の日本語学科に入り、日本語を勉強し始めました。

そこから長い道のりでしたが、結局日本の大学院に進学しました。日本史学の分野で鎌倉～室町期の古文書を読んでいるうちに、漢文訓読体のリズムに憧れ、外国人日本語学習者を対象とする漢文訓読教育について研究し始めました。調査では、ロシア国内の日本語学科の学生たちを相手に四字熟語を題材に授業を行ったことがあります。難しいと思われがちな漢文ですが、彼らが真剣に訓読の基礎について聞いて、一個一個の漢字の意味や読み、訓読文中の助詞や助動詞、成句全体の意味について確認をしながら、楽しそうにレ点や一二点を付けていました。「郷に入っては郷に従え」が四字熟語「入郷従郷」から由来していることや、「不俱戴天」が「俱に天を戴かず」と訓読できることは、日本の方でもあまり意識されないようですが、ロシア語にも同じ意味の成句があることを学生が親しみやすく、面白いと言っていました。ふと思うのですが、日本の国語の授業でも、まずは身の回りの四字熟語等の成句から入れば、生徒が漢文訓読に興味を持ちやすくなるのではないのでしょうか。



分野・専門紹介—File50

フランス文学の多様な魅力を知る

分野・専門名：フランス語フランス文学第2



フランス文学といえば、一般的にはきっと恋愛や冒険などのどちらかといえば美しい事物を扱っているというイメージが強いのではないのでしょうか。

しかし、実際のフランス文学はそのような綺麗なものだけを題材にしているわけではありません。私たちはこれまでに殺人やアルコール依存症などの退廃的な内容を歌っているボードレールの『悪の華』や戦場とそこでの思考の混沌を描いたクロード・シモンの『フランドルへの道』、自殺や不条理という事柄を考察しているカミュの『シーシュポスの神話』など、一般的なフランス文学のイメージとは異なる作品を味わってきました。初めは独特な内容や文体に対して研究室中に戸惑い

が溢れましたが、読み進めていくうちにすっかりその世界観の虜になってしまいました。

一方、当研究室では文学以外でもフランス文化を味わおうと様々なことを行っています。例えば11月にはボジョレー・ヌーヴォー解禁を記念したパーティーを開催し、1月にはフランスで新年の公現祭を祝う菓子であるガレット・デ・ロワを食べます。また研究室メンバーはストラスブールでの語学研修の参加やリヨンへの留学など意欲的にフランスを訪れています。

私たちはこのように様々な活動を通してフランス文学の多様な魅力に触れています。皆さんも一面的ではないフランス文学、文化像を見てみませんか？

(学部4年・市川 陽南子)

(写真は昨年11月に行ったボジョレー・ヌーヴォー解禁記念パーティーの様子です。)

分野・専門紹介—File51

発掘調査と実習旅行（考古学実習・考古博物館実習）

分野・専門名：考古学

私たち考古学研究室では主に日本の考古学について学んでいます。毎週火曜日の実習授業では、大学内で測量実習を行ったり、土器の実測図を書く練習をしたりしています。夏季休暇には石川県野々市市で行われている発掘に参加する発掘実習があります。さらに、様々な地域の遺跡などを実際に見に行く実習旅行もあり、過去には韓国や山陰、北海道などに行きました。

今回は昨年度の発掘実習と実習旅行について紹介します。

発掘実習は石川県野々市市の末松廃寺という所で5泊6日で行いました。実際に発掘を担当されている市職員の方からご指導を受けつつ、前期の実習授業で学んだことを活かして発掘していきます。活かすだけでなく、どのようにして、あるいはどの深さまで土を掘っていくのかなど、発掘の現場に行かなければ分からないことを新たに学び、吸収していきます。発掘中は夏の暑さが体にこたえる時もありますが、休憩時には誕生日を迎えた学生のお祝いをしたり、1日の発掘が終われば美味しいご飯を食べたりと、仲を深めて和気あいあいとした楽しい時間が過ぎていきます。この発掘実習は濃く学ぶことが出来る充実した6日間です！

実習旅行は2泊3日で福岡・佐賀に赴きました。吉野ヶ里遺跡や板付遺跡を訪問し、実際の遺物や復元された建物を見ることで理解を深めていきました。資料館では古代の人々の服を着たり火起こし体験をしたり、座学だけでは分からないことも学ぶことが出来ました。さらに九州国立博物館では特別に博物館で行われている資料の修復作業などを見学させていただくことができ、とても良い体験となりました。

これを読んで考古学研究室に興味を持ってもらえると嬉しいです！

(学部3年・杉浦 由奈)



実習旅行のひとつ（板付遺跡の竪穴建物）

後期の授業開始♪

文学部1年生は年内に2度、大きな決断を迫られます。まず入学直後に第2外国語選択。2年生から所属する分野専門を決めるためのオリエンテーションが10月開始です。文学部で何を極めるか、一生を左右する(かもしれない)選択を短期間で行います。年末の最終決定まで学生も受け入れ教員もちょっとドキドキする2ヶ月です。(YK)

*本紙では、名大文学部の多彩な内容を順に紹介していきますが、それまで待てない人は...
名大文学部のWEBサイト <https://www.hum.nagoya-u.ac.jp/> まで(『月刊名大文学部』のバックナンバーもあります)

最近の文学部